

先生各位

受託中止項目および新規検査項目のご案内

謹啓 時下益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。また、平素はひとかたならぬお引き立てを賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、このたび下記のとおり受託中止項目および新規検査項目のご案内を申し上げます。

今後とも変わらぬご愛顧のほど、よろしくお願い申し上げます。

謹白

記

● 受託中止項目

《最終受付日》 平成 30 年 9 月 1 日（土）まで受託

《中止項目》

総合 検査案内	検査 コード	検査項目名称	代替項目
P.132	9769	RAS 遺伝子変異解析	RAS-BRAF 遺伝子変異 解析 【検査コード 9857】 ※次頁参照

《中止理由》 委託先における中止

● 新規検査項目

《受託開始日》 平成 30 年 9 月 3 日（月）受付分より

《検査要項》

検査項目名称	RAS-BRAF 遺伝子変異解析
検査コード	9857
JLAC10	8C241-0000-099-898-49
診療行為コード	160205350 + 160215250
検体量・保存	未染スライド 5 枚 (5~10 μ m 厚)・常温 パラフィン切片 5 枚 (5~10 μ m 厚)・常温
実施料 (判断料)	2,500 点 + 2,100 点* (尿・糞便) *切除不能な進行・再発の大腸癌患者における治療方針の決定として実施した場合は、RAS 遺伝子検査、BRAF 遺伝子検査の 2 項目包括として 4,000 点を算定する。
所要日数	7 ~ 11 日
検査方法	PCR-rSSO 法
基準値・報告形態	変異陰性・別紙報告

保険収載名称：悪性腫瘍組織検査 1 悪性腫瘍遺伝子検査 (RAS 遺伝子検査 / BRAF 遺伝子検査)

保 険 注 釈：

- (1) 「1」の悪性腫瘍遺伝子検査は、固形腫瘍の腫瘍細胞を検体とし、PCR 法、SSCP 法、RFLP 法を用いて、悪性腫瘍の詳細な診断及び治療法の選択を目的として悪性腫瘍患者本人に対して行った、以下の遺伝子検査について、患者 1 人につき 1 回に限り算定する。(ただし、肺癌における EGFR 遺伝子検査については、再発や増悪により、2 次的遺伝子変異等が疑われ、再度治療法を選択する必要がある場合にも算定できる。また、早期大腸癌におけるリンチ症候群の除外を目的として BRAF 遺伝子検査を実施した場合にあっては、K-ras 遺伝子検査又は RAS 遺伝子検査を併せて算定できないこととし、マイクロサテライト不安定性検査を実施した年月日を、診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。) また、PCR-rSSO 法を用いて BRAF 遺伝子検査を実施した場合は、「ハ」の K-ras 遺伝子検査の所定点数を算定する。
- ア〜カ (略)
- キ 大腸癌における EGFR 遺伝子検査、K-ras 遺伝子検査、RAS 遺伝子検査又は BRAF 遺伝子検査
- (2) ~ (5) (略)

《解 説》

抗EGFR抗体薬は切除不能な進行再発大腸癌の標準治療薬の1つですが、RAS遺伝子変異やBRAF遺伝子変異を有する大腸癌では、抗EGFR薬の奏効が期待できないことが明らかになっています。一般的にRAS遺伝子変異とBRAF遺伝子変異が同時に検出されることはありませんが、近年の治療において両者を同時に実施することは、切除不能進行再発大腸癌におけるよりの確な治療方針の選択に重要であると言えます。

《注 意》

- HE 染色を行い腫瘍細胞が含まれていることが確認できた切片との連続切片 (未染スライド) を提出してください。
- 腫瘍細胞の比率が少ない場合は、より多い検体を選んで提出してください。
- 長期間ホルマリン固定した組織や、ホルマリン固定前に室温放置が長い検体は解析不能となる場合があります。
- 病理組織検査報告書のコピーを添付してください (腫瘍細胞が認められていること)。